



表紙の写真(千葉市動物公園提供)

オニオオハシ

当財団は千葉市動物公園における生物多様性の保全について2023年に千葉市と連携いたしました。



公益財団法人イオン環境財団

〒261-8515 千葉市美浜区中瀬1-5-1
TEL.043-212-6022 FAX.043-212-6815
E-mail ef@aeon.info
<https://www.aeon.info/ef/>



ホームページ



Facebook



Instagram



公益財団法人 イオン環境財団 概要書2024-2025

里山。

それは人と自然が共生し、

未来へつながる

大切な場所。

目次

理事長挨拶／設立趣旨／財団の概要 03



植樹

失われたみどりを再生するために
世界各地で木を植えています

—> 05-08



助成

環境活動に取り組む非営利団体に
助成しています

—> 09-12



環境教育・共同研究

環境保全への関心を高めるため
気づきや学びの場を提供しています

—> 13-22



顕彰

専門性をもつステークホルダーと連携
して、環境課題に取り組んでいます

—> 23-29

30周年記念事業 30

イオン環境財団のあゆみ 31

役員・評議員一覧 33

歌「木を植えて」 34

ご挨拶

公益財団法人イオン環境財団は、1990年に日本で初めて、地球環境をテーマにした企業単独の財団法人として設立され、アジアを中心とする世界各地で環境保全活動を実施しております。

イオンの森の植樹は、中国 万里の長城の100万本植樹を含め、累計1,268万本^(※)を超えており、現在は、みどりが再生し多様な生物が宿るいのちあふれる森となりました。

また近年は、「イオンの森づくり」に次ぐ新たな取り組みとして、「イオンの里山づくり」をはじめました。人々が共有の資産として活用しながら守ってきた身近な自然である里山は、経済成長や社会変化の中で荒廃が進んでいます。

当財団は、人と自然が共生する持続可能な新しい関係性を構築したいと考えています。昔ながらの里山のみでなく、未来に向かって、里山の保全・利活用が地球環境・人と生活・地域社会の持続性に結びついていく笑顔あふれる「新しい里山」の構築を目指します。

※2024年2月現在

公益財団法人イオン環境財団
理事長

岡田 元也

設立趣旨

環境問題が今日のように広く社会に認知される前の1990年、岡田卓也(現イオン株式会社名誉会長相談役)によりイオン環境財団は設立されました。

地球温暖化、森林減少、海洋汚染など、自然環境の危機は、地球規模の視野に立ち、国主導の施策を待つのではなく、民間企業や市民団体などの力が必要とされていました。

当財団は「お客さまを原点に平和を追求し、人間を尊重し、地域社会に貢献する」というイオンの基本理念に基づき、植樹活動や資源の再利用などに取り組んできました。地球環境を守るための活動を自ら展開するとともに、同じ志を持つ団体への支援・助成を目的として、設立しました。

財団の概要

■公益目的事業

(1)助成・支援に関する事業 (2)植樹に関する事業 (3)顕彰に関する事業
(4)環境教育に関する事業 (5)その他

■基本財産

[イオン株式会社]株2,181万1,100株
[時価評価額]779億7,468万2,500円(2024年2月末現在)

■事業年度

4月1日～3月31日

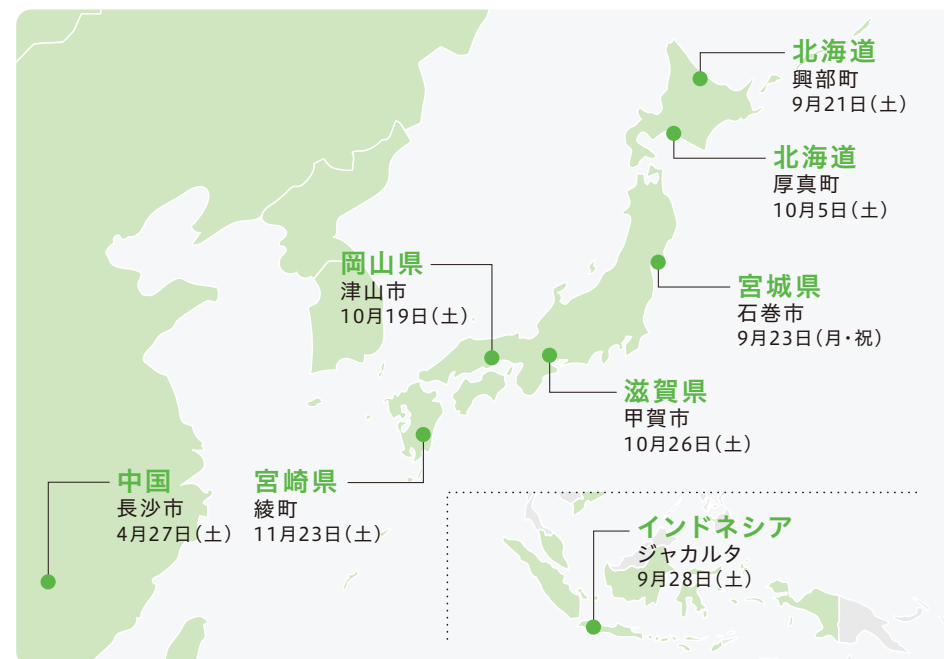
これからも いのちあふれる森を 未来に伝えていく



インドネシア・ジャカルタ

自然災害や伐採などで失われた森林の再生、防災林の再生、気候変動課題の解決などを目指し、国内及びアジアを中心とした世界各地で地域のボランティアの皆さまと植樹を行っています。枝打ちや下刈り等の「育樹活動」や植樹地域の理解を深めるための「ワークショップ」「環境教育」も併せて実施しています。

2024年度の主な植樹・育樹計画



2023年度の活動

- 島根県松江市植樹(4月22日)
「荒廃した森林の再生」
- マレーシア・ビドー植樹(5月20日・21日)
「荒廃した森林の再生」
- 北海道南富良野町植樹(5月20日)
「荒廃した森林の再生」
- 宮城県亶理町植樹(6月18日)
「東日本大震災からの復興の森づくり」
- インドネシア・ジャカルタ植樹(8月5日)
「都市防災林の再生」
- 宮城県石巻市植樹(9月23日)
「東日本大震災からの復興の森づくり」
- 宮崎県綾町育樹(10月7日)
「自然との共生をめざす森づくり」
- 千葉県君津市植樹(10月28日)
「自然との共生をめざす森づくり」
- 滋賀県甲賀市植樹(11月12日)
「荒廃した森林の再生」



宮崎県綾町

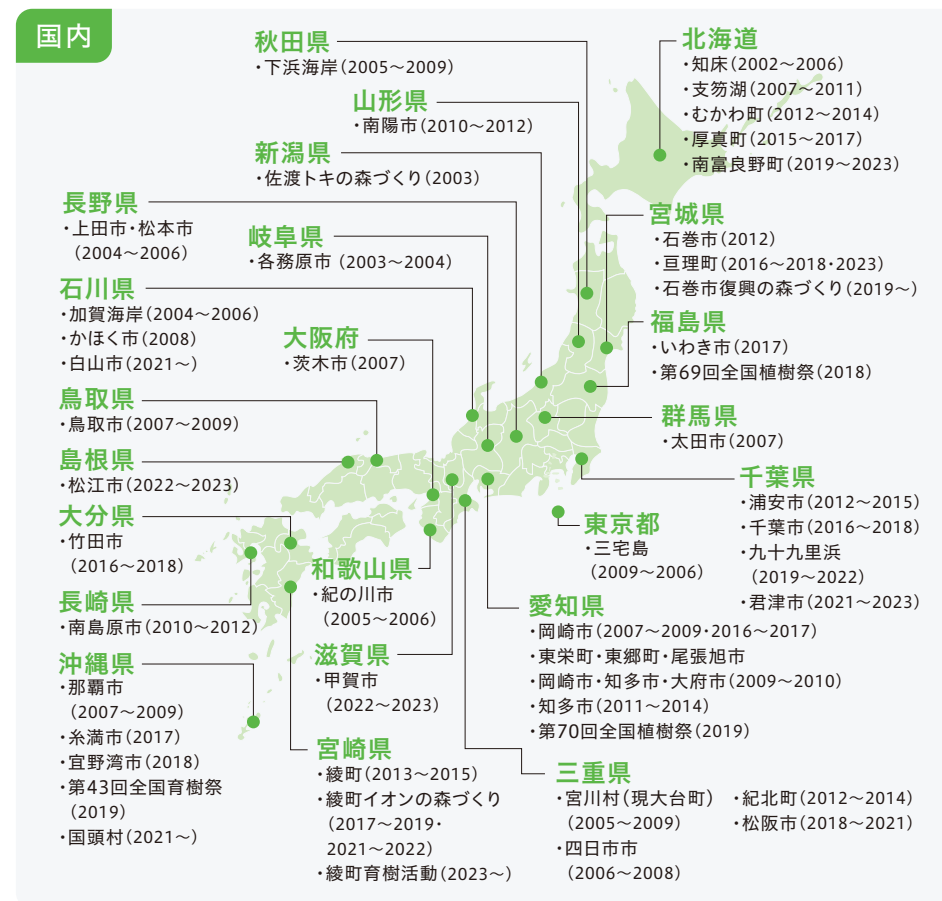
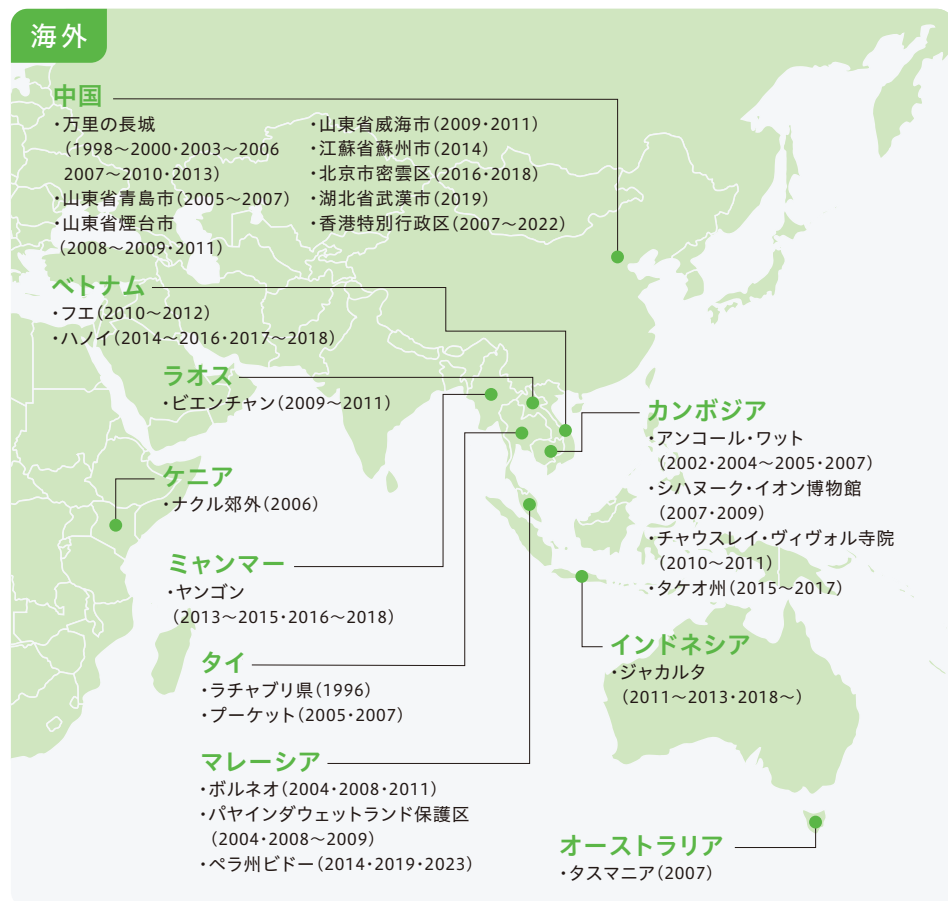


宮城県石巻市



滋賀県甲賀市

これまでの植樹地



万里の長城

「伐採によって森が消滅した万里の長城に、みどりの森を蘇らせよう」と、10年以上にわたるプロジェクトを行いました。日中両国のボランティア1万5,000名が100万本の植樹を行いました。2013年には、育樹を実施しました。



万里の長城(中国)

全国植樹祭

豊かな国土の基盤である森林・みどりに対する理解を深める目的で行われている全国植樹祭の主旨に賛同し、2018年から苗木ほかを継続的に協賛しています。



第73回 全国植樹祭いわて2023 サテライト会場(岩手県)

かけがえのない 豊かな自然を未来の 子どもたちへ引き継ぐ



助成先 水沢森人の会による竹林整備(神奈川県)

世界各地で環境活動に積極的に取り組む非営利団体に対して、毎年総額1億円を助成しています。

助成実績【第1回(1991年)～第33回(2023年)】

累計団体数
3,436団体

累計助成金額
31億946万円



助成先 男ノ子の里 棚田保存会(男ノ子ファーム)の活動地(福岡県)

里山コモンズの再生

かつて地域で大切にされてきた里山は、様々な課題をかかえ、人と自然の共生関係が崩れかけています。エネルギー循環の変化や、人手が入らず放置された現在の里山の課題を解決するため、里山の保全・修復・活用への取り組みが重要となります。地域内外の多様なステークホルダーと連携し、人と自然の調和を取り戻すことで、地球環境の持続性に貢献する開かれた里山づくりを目指します。

実施概要

第34回(2024年度)助成公募
テーマ「里山コモンズの再生」

■活動分野：里山(里地・里川・里湖・里海を含む)の保全と利活用

- ①植樹を含む里山の修復
- ②里山の伝承
- ③被災地の里山復興
- ④自然環境教育
- ⑤野生動植物・絶滅危惧生物の保護

■助成総額：1億円

■対象団体

地域ボランティアとともに、持続可能な社会の実現のための環境活動に取り組んでいる非営利活動団体

■公募期間：2024年6月1日(土)～7月31日(水)

■活動対象期間：

2025年4月1日(火)～2026年3月31日(火)

詳細はこちら



採択された助成先と活動分野(第33回 2023年度)

公募テーマ「里山コモンズの再生」

103団体/総額7,985万円 助成期間:2024年4月1日(月)~2025年3月31日(月)

①里山(里地・里川・里湖・里海を含む)の保全・維持・管理

■(特非) パルシック(マレーシア) ■結城里山の会(茨城県) ■久慈川水防竹林を守る会(茨城県) ■ヒジノワ タケ部(栃木県) ■森びとプロジェクト(栃木県、福島県) ■(特非)里山環境さなざわ(さなざわ里山だんだんの会)(群馬県) ■森林塾青水(群馬県) ■(特非)つるがしま里山サポートクラブ(埼玉県) ■(特非)かわごえ里山イニシアチブ(埼玉県) ■埼玉県立浦和第一女子高等学校麗風会(埼玉県) ■(特非)こんぶくろ池自然の森(千葉県) ■(特非)ちば環境情報センター(千葉県) ■椎の森里山会(千葉県) ■(特非)しろい環境塾(千葉県) ■あびこ谷津校友会の会(千葉県) ■NPO法人 草炭緑化協会(千葉県) ■(一社)小さな地球(千葉県) ■認定(特非)えどがわエコセンター(東京都) ■横浜自然観察の森友の会(神奈川県) ■(特非)山崎・谷戸の会(神奈川県) ■水沢森人の会(神奈川県) ■玉縄城址まちづくり会議(神奈川県) ■NPO法人 海の森・山の森事務局(神奈川県) ■木もれびの森の花と木々を守る会(神奈川県) ■猿倉緑の森の会(新潟県) ■特定非営利団体 エコラ倶楽部(長野県) ■(特非)ぎふし森守クラブ(岐阜県) ■NPO愛宕山ランド(岐阜県) ■鯉城・堀川と生活を考える会(愛知県) ■認定(特非)森林の風(三重県) ■巨木と水源の郷をまるる会(滋賀県) ■牟礼山森林クラブ(滋賀県) ■せぎなお会(滋賀県) ■NPO法人 愛のまちエコ倶楽部 里守隊(滋賀県) ■(特非)森林ボランティア竹取物語の会(大阪府) ■(特非)泉南の里山を大切にする会(大阪府) ■(特非)テクネー&ポイエーシス(大阪府、京都府) ■行常しあわせの森づくり協議会(兵庫県) ■(特非)棚田LOVERS(兵庫県) ■奈良・人と自然の会(奈良県) ■(特非)うだ夢創の里(奈良県) ■(特非)ひろしま自然学校(広島県) ■(特非)アーキペラゴ(香川県) ■和白干潟を守る会(福岡県) ■男ノ子の里 棚田保存会(男ノ子ファーム)(福岡県) ■NPO法人 田縁プロジェクト(福岡県) ■有明・里山を守る会「上内里山保全会」(福岡県) ■うーたの会(大分県) ■妙音山を守る会(大分県) ■(特非)さかのせぎ・彩彩カフェ(大分県)

②植樹を含む里山の修復

■(一社)地球緑化クラブ(中国) ■(特非)中央アジア森林草地保全研究所(タジキスタン) ■(特非)イカオ・アコ(フィリピン) ■(特非)アジアの誇り・プレアビヒア日本協会(カンボジア) ■(一社)マニスマンクラブ(インドネシア) ■(特非)VERSTA(ブラジル) ■(特非)白神ネイチャー協会(秋田県) ■(特非)ふくしま再生の会(福島県) ■(公財)鎮守の森のプロジェクト(福島県) ■NPO団体令和の杜(千葉県) ■(特非)戸隠森林植物園ボランティアの会(長野県) ■(特非)国際ふるさと森づくり協会(長野県) ■(特非)静岡山の文化交流センター(静岡県) ■(特非)グラウンドワーク三島(静岡県) ■NPO法人 伊豆未来塾(静岡県) ■吉田山の里山を再生する会(京都府) ■かしわら森の会(大阪府) ■(一社)J.M foundation 土佐清水(高知県) ■(特非)霧島ふるさと命の森をつくる会(鹿児島県)

④自然資源の利活用

■(一社)むさし企画(埼玉県) ■袖ヶ浦薪倶楽部(千葉県) ■NPO法人 みんなの畑の会(石川県) ■NPOまるよし(滋賀県) ■(特非)朝霧森林倶楽部(高知県) ■(特非)九州バイオマスフォーラム(熊本県)

⑥里山に関わる伝承

■八王子由木メカイの会(東京都)

⑦被災地の里山復興

■(特非)NEKKO(フィリピン) ■ハロハロ(フィリピン) ■三陸自然学校大槌(岩手県)

③野生動植物・絶滅危惧生物の保護

■NPO法人 エコ・地域文化研究会(ベトナム) ■(特非)サラマンドフの会(ケニア) ■ボランティアサザンクロスジャパン協会(マダガスカル) ■大雪山マルハナバチ市民ネットワーク(北海道) ■サステナブルシティ・クラブ(埼玉県) ■坂月川愛好会(千葉県) ■千葉県野生生物研究会(千葉県) ■(特非)海プラスSOU(静岡県) ■愛知守山自然の会(愛知県、三重県、岐阜県) ■山中比叡平里山倶楽部(滋賀県) ■里山の山野草を守る会(奈良県) ■NPO法人 ふくおか湿地保全研究会(福岡県、大分県) ■(公財)阿蘇グリーンストック(熊本県) ■(特非)ゆいむすび実行委員会(鹿児島県) ■(一社)沖縄沿海保全同友会(沖縄県)

⑤自然環境教育

■(特非)モンゴル環境情報センター(モンゴル) ■蒼いウランパートル緑化技術支援実行委員会(モンゴル) ■キラキラバルク増田西(宮城県) ■群馬ナチュラリスト自然保護協議会(群馬県) ■青空自主保育 おひさまぼっこ(石川県) ■「あいちの海」グリーンマップ(愛知県) ■一杯の味噌汁プロジェクトwith本證寺(愛知県) ■山内エコクラブ(滋賀県) ■糸島九州ちくわの会(福岡県)

助成先の活動紹介

■特定非営利活動法人
山崎・谷戸の会(神奈川県)

里山の保全・維持・管理

住宅地に囲まれた鎌倉中央公園内にて、谷戸の景観と生態系を保全するために、地元農文化を継承した資源循環型の里山農作業を継続実施し、次世代向けの環境教育も行っています。

■特定非営利活動法人
海プラスSOU(静岡県)

野生動植物・絶滅危惧生物の保護

西伊豆(西浦地先)の錨泊地及び錨泊禁止区域において、希少なウミヒルモやコアマモの保護・再生に向けての取り組みを行っています。

■特定非営利活動法人 アジアの誇り・
プレアビヒア日本協会(カンボジア)

植樹を含む里山の修復

世界文化遺産であるプレアビヒア寺院周辺にて、現地の人々と協働し、植樹、下草刈り、給水等を行い、自然環境保全に取り組んでいます。

■せぎなお会(滋賀県)



里山に関わる伝承活動

暮らしが豊かな村を目指し、棚田の保全整備活動を継続実施するとともに、機械に頼らない伝統的な農法を実践しています。

過去の助成先の活動詳細



※(特非):特定非営利活動法人 (一社):一般社団法人 (公財):公益財団法人

環境課題に取り組む 人材の育成を 目指して



エコツアー 志賀高原ユネスコエコパーク(長野県・群馬県)

大学をはじめとしたさまざまな専門機関と連携し、里山に関する共同研究を行うとともに、環境分野で活躍する人材育成のプログラムを作成し、学びの場を提供しています。

大学連携

持続可能な社会の実現に向け、早稲田大学、東京大学、東北大学、京都大学、千葉大学の5大学と連携し、地域が求める里山づくりを目指します。

早稲田大学

2020年9月、時代に即した環境課題の解決を目的に、「AEON TOWAリサーチセンター」を設立しました。地域課題対応や国際環境人材育成について協働の取組みを開始しました。連携分野は、①環境、地域の伝統・文化に配慮した植樹・育樹、木を活かす活動などの「森づくり」、②森づくりを通じて環境・経済・社会が統合した持続可能な「地域づくり」、③次世代を担うグローバルな環境人材・リーダー育成などの「人づくり」の3分野です。2022年からは寄附講座を開講し、里山を介した持続可能な社会づくり(サステナブルコミュニティ論)を通じて各地の代表的な里山にて研究を行っています。



寄附講座 綾町(宮崎県)

2024-2025

寄附講座や環境リーダー講座の「多世代で創る、共に育つ里山」の集大成としての報告会や、年次報告会を開催します。

- サステナブルコミュニティ講座
- フィールド実習10月～1月

東京大学

2017年から2021年までの5年間、東京大学未来ビジョン研究センターと連携し、「いま次世代と語りたい未来のこと」をテーマに「イオン未来の地球フォーラム」を実施してきました。2022年3月に、自然と調和した健全な人間社会の構築と地域の経済再生を目指し、同センターと研究ユニット「イオン東大里山ラボ」を設立しました。新たな里山のコンセプトとして、神奈川県秦野市において里山保全活動がフレイル予防につながり、健康長寿に結びつく研究をしています。



秦野フレイルチェック(神奈川県)

2024-2025

神奈川県秦野市内の里山とイオン店舗を拠点に、里山活動とフレイル予防活動を結びつける活動において、多面的なフレイルの評価を調査します。

- 秦野市名古木地区里山実習(通年)

東北大学

2021年6月、東北大学災害科学国際研究所、イオンモール株式会社、イオン環境財団で、「産学連携協力」に関する協定を締結しました。安全で安心できるレジリエント・コミュニティの創生を目指し、「イオン防災環境都市創生共同研究部門」を立ち上げました。2021年より、仙台市内の小学生とともに自生種の種子を採取・育苗しています。大きくなった苗は防災に配慮した都市景観づくりに活かしています。



どんぐりひろい(宮城県)

2024-2025

「杜のデザイン」をテーマに、緑化計画マニュアルの改訂や地域の人とのワーキングを通じ、防災・減災に対応する森づくりを目指しています。

- 仙台市内小学生の環境教育(通年)
- 宮城県民の森イオンの森での種苗採集と育成

京都大学

2022年7月、森里海連環学に基づく新しい里山・里海の共創に向け、教育・研究・社会連携活動を推進することを目的とし、京都大学フィールド科学教育研究センターと共同して「新しい里山・里海共創プロジェクト」を開始しました。具体的には、3か所の実験所で地域ボランティアと里山・里海の保全活動を実施し、「里山おーぷんらぼ」や、「里山里海つながるフェス」を開催しました。



里山おーぷんらぼ(京都府)

2024-2025

市民参加のイベントを多数開催予定です。

- 年4回:「新しい里山里海の勉強会」(オンライン)
- 6月:ピーチクリーン・生態系観察(島根 和歌山県)
- 7月:舞鶴市・大浦の魚付き林と海辺の生き物観察会(舞鶴水産実験所 京都府)
- 10月:演習林を活用した里山の学習会(京都市上賀茂試験地 京都府)
- 12月:研究者・活動団体・学生・市民参加の「里山里海つながるフェス」(イオンモール高の原 京都府)

千葉大学

2021年より、千葉大学大学院園芸学研究院のランドスケープ学実習フィールドとして景観・生物多様性・利活用に配慮した里山づくりの研究を開始しました。植樹から育樹、バイオマス蓄積、生物多様性の推移の調査を行っており、実習の成果をまとめています。



フィールドワーク(千葉県)

2024-2025

「君津イオンの森」での研究を深め、植物学・林学上の知見を高めることで、里山の再生モデルの構築を目指します。

- 君津イオンの森ランドスケープ実習4月～8月

イオンSATOYAMAフォーラム

新しい里山の可能性と価値を創造するため、共同研究をしている早稲田大学、東京大学、東北大学、京都大学、千葉大学とともに、これまでの活動や研究成果をもとに、人と自然の望ましいバランスを研究し里山の新たな可能性を見出し、発信する本フォーラムを実施しています。

■第1回(2023年)

「里山が持つ新たな価値創造=ネイチャーポジティブとウェルビーイング」をテーマに、12月12日、国連大学ウ・タント国際会議場にて開催されました。これまでの5大学に加え、国連大学、里山イニシアティブも加わり、具体的な活動をもとに、持続可能な未来につながる里山の可能性について議論しました。



2024-2025

各大学と継続して共同研究を行い、当財団と連携している助成先や自治体と協働し、幅広い視点で里山の在り方について考えていきます。

- 2025年2月18日(火)国連大学にて開催予定

ユネスコエコパーク

生態系の保護・保全のみならず自然と人間社会の共生に重点を置くというユネスコエコパークの理念に賛同し、エコパークのさらなる発展に向けて、生態系の保全と持続可能な利活用の調和を目指し、2017年に日本ユネスコエコパークネットワークと連携しました。



志賀高原エコツアー(長野・群馬)

■ 連携協定事項

- ①ユネスコエコパークの生物多様性保全と利活用
- ②ユネスコエコパークにおける環境教育の実践
- ③ユネスコエコパークの新たな価値創造と共有化
- ④里山・里海の持続可能な地域構築のための協働

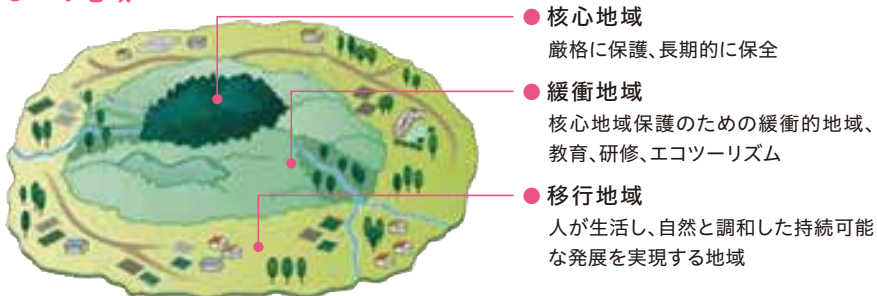
■ ユネスコエコパークとは

豊かな生態系を有し、地域の自然資源を活用した持続可能な経済活動を進めるモデル地域です。

3つの機能

- 保全機能(生物多様性の保全)
- 経済と社会の発展
- 学術的研究支援

3つの地域(ゾーニング)



※資料提供:日本ユネスコ国内委員会

2024-2025

● エコパークフェア

生物多様性の保全活動を紹介し、エコパークの魅力を広く伝えていきます。

● エコツアー

エコパークをはじめとする自然環境保全地域や持続可能な利活用地域に学ぶツアーを計画します。

日本ジオパーク

当財団と日本ジオパークネットワークは、それぞれが有する人的・物的資源を活用し、持続可能な社会の実現に向けて人と自然資本(地質遺産)との共生及び各ジオパーク認定地の地域の発展に寄与することを目的とし、2022年に連携しました。



■ 連携協定事項

- ①地質遺産をはじめとする自然環境の保全
- ②ジオパークを活用した環境・防災教育
- ③ジオパークの価値と知見の普及啓発
- ④地域連携による、人と自然が共生する持続可能な社会の実現

■ ジオパークとは

地質・地形から地球の過去を知り、未来を考えて活動する場所です。地球科学的意義のある地質遺産や景観が、保護、教育、持続可能な開発のすべてを含んだ総合的な考え方によって管理された、一つにまとまったエリアです。

■ 2023年の活動



三陸ジオパーク 八戸大須賀海岸ビーチクリーン(青森県)



三陸ジオパーク 浄土ヶ浜(岩手県)

2024-2025

● ジオパークフェア in 東北[5月3日(金)~4日(土)]

岩手県盛岡市にて東北各地8地域のジオパークがそれぞれの活動紹介を行いました。

● 日本ジオパーク全国大会[8月30日(金)~9月1日(日)]

青森県下北ジオパークに全国46地域のジオパークが集います。



盛岡市(岩手県)



生物保護地域カッタバ島(ベトナム 2015)



アンコール・ワット遺跡群(カンボジア 2019)



ASEP閉講式(東京 2012)



内モンゴル自治区のクブチ砂漠実地研修(中国 2014)

グローバルユースミドリプラットフォーム

生物多様性の保全のため、グローバルで活躍する環境リーダーの育成を目的とし、国連大学と連携し実施します。アジアのユース世代を対象に合同研修プログラムを実施後、最終的に選出された優秀者には、国際会議の場で提言する機会を提供します。

2024-2025

- 募集人数 20名
- スケジュール
 - 6月: 参加学生募集
 - 7月: 事前研修(オンライン)
 - 8月: 国際合同研修(オンライン)
 - 10月: 研修参加者より2名を国際会議(COP16)へ派遣
 - 11月以降: フォローアップ・普及啓発

アジア学生交流環境フォーラム(Asian Students Environment Platform: ASEP)



国連生物多様性条約事務局との連携を契機に、グローバルなステージで活躍する環境分野の人材育成を目的として、2012年～2023年までの計11回開催し、10カ国847名の大学生が参加しました。フィールドワークや講義を通じて、各国の自然環境や価値観の違いを学びながら、地球環境問題について討議しました。

■ これまでの参加校(新規参加年順)

早稲田大学	日本	王立プノンペン大学	カンボジア
高麗大学校	韓国	インドネシア大学	インドネシア
清華大学	中国	チュラロンコン大学	タイ
ベトナム国家大学ハノイ校	ベトナム	ヤンゴン経済大学	ミャンマー
マラヤ大学	マレーシア	フィリピン大学	フィリピン

炭素蓄積量調査の実施

2019年に情報人工衛星から地球表面を観測する高度な技術を持つ一般財団法人リモートセンシング技術センターと連携協定を締結し、リモートセンシング技術を森林管理に活用した森づくりや環境教育などで協働しています。綾町および南島原市のイオンの森で地元の小中学生が、樹高と幹の太さを計り、樹木の炭素蓄積量を推定することにより、森が吸収した二酸化炭素の量を把握する活動を行っています。



綾中学校(宮崎県)



南有馬小学校(長崎県)

教育教材の寄贈

再生可能エネルギー活用に関する啓発や普及を目的に、2009年から国内外の小中学校に、太陽光発電システムを教材にした環境教育を、日本・マレーシア・ベトナム・香港の計56校で実施しました。



発電状況啓発パネル 高知市立城西中学校(高知県)



九龍灣聖若翰天主教小學(香港)

教育イベント

■アースデイ東京



代々木公園

来場された方に当財団の活動を紹介するとともに、助成先によるワークショップも展開しています。

■世界環境デー



千葉県

毎年6月に行われる環境月間や、6月5日の世界環境デーに合わせて、展示やワークショップを通じ活動を紹介しています。

■こどもの森づくりフォーラム



埼玉県秩父市

全国植樹祭に先がけ、豊かなみどりを次世代に引き継ぐイベントに参加しています。

育成プログラム

■ちばアントレプレナーシップ

将来の産業を担う人材を育成するための、「ちばアントレプレナーシップ(起業家精神)教育コンソーシアム Seedlings of Chiba」に2021年に参画しました。2023年のプロジェクトでは千葉県動物公園の協力を受け、市内小中学生を対象に、持続可能な社会を実現するため、絶滅の危機に瀕している野生動物や人類との共生関係を理解し、地球環境を守る将来の起業家育成を目的とし、環境教育プログラムを実施しました。



CHIBA-ZOOTUBEプロジェクト(千葉県)

Seedlings of Chibaの
サイトはこちら



■名桜大学寄附講座

2021年7月に世界自然遺産に登録された沖縄県北部および西表島をフィールドとした実践演習を行うことにより環境リーダーの育成を目指し、世界自然遺産を守りながら社会に貢献する人材の育成を行いました。



やんばる学びの森(沖縄県)

その他の活動

■フューチャーアース



イオン時津ショッピングセンター(長崎県)

持続可能な社会への転換をめざす、地球環境研究・サステナビリティ科学の国際的研究プラットフォームです。当財団は、2017年からフューチャーアースと「イオン未来の地球フォーラム」などで協働しており、2023年9月は、「フューチャーアース対話プロジェクト」を開催しました。

■世界自然遺産



アミノクロウサギ(鹿児島県)

世界自然遺産登録地の自然環境保全を目的に、現地での環境活動に取り組んでいます。2023年7月より奄美大島・徳之島で連携を開始しました。

■発刊本



「町が生まれ森が広がる
一岡田卓也のものがたりー」



「夢のある未来をつくるSDGsハンドブック」

■日本科学未来館



2023年同館のリニューアルに伴い、「プラネタリークライシス」コーナーの常設展示に協力しています。

■QuizKnock



環境問題をテーマにしたクイズ形式の教育動画を作成し、環境教育に活用しています。

■環境配慮型シャツの採用



キャサリンハムネットデザインのスローガンTシャツと、再生素材の生物多様性Tシャツを植樹や各種イベントの環境活動用として着用しています。

いのちあふれる 美しい地球を 次代へ



第2回みどり賞授賞式(インド・ハイデラバード COP11会場 2012)

The MIDORI Prize for Biodiversity
生物多様性みどり賞



国連生物多様性条約事務局(The Secretariat of the Convention on Biological Diversity, SCBD)と連携し、当財団の設立20周年であった2010年の「生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)」日本開催を契機に「The MIDORI Prize for Biodiversity 生物多様性みどり賞」を創設しました。これは、顕著な環境活動が認められる個人を顕彰するもので、これまでに17カ国19名を顕彰しています。



第1回授賞式(愛知県 2010)



第3回授賞式(韓国・ピョンチャンCOP12会場 2014)



第5回受賞者 アブドゥル・ハミド・ザクリ氏(東京都 2018)



第5回受賞者 キャシー・マッキノン氏(東京都 2018)

2024-2025

本年度は、10月のCOP16の
コロンビア開催を受け、第8
回生物多様性みどり賞授賞式
を現地で実施し、翌年度にか
け受賞者の活動を広めます。

- 開催時期：10月21日(月)～11月1日(金)
- 表彰人数：2名
- 副賞金額：各10万USドル
- 共催：国連生物多様性条約事務局(SCBD)
- 後援：環境省、外務省

生物多様性日本アワード(2009年～2021年)

生物多様性の保全、持続可能な利用、普及・啓発に関する取り組みを実施している日本国内の環境活動団体に対し、これまでに38団体を顕彰しました。2022年、国際賞・国内賞ともに「生物多様性みどり賞」へ名称を統一しました。



第7回生物多様性みどり賞(国内賞)授賞式(東京都 2022)

2009年 第1回生物多様性日本アワード(国内賞)

■グランプリ賞: NPO法人アサザ基金(茨城県) / 白菊酒造株式会社 / 株式会社田中酒造店

地域企業との協働による谷津田の保全

霞ヶ浦で絶滅に瀕していた浮葉性植物「アサザ」を再生するため、1995年より流域の学校・住民・水産業者・企業も連携した市民型公共事業「アサザプロジェクト」を開始し、持続可能な循環型社会の構築に取り組み、100年後にトキの舞う湖をめざしています。



■優秀賞: 財団法人知床財団(北海道) / NPO法人農と自然の研究所(福岡県) / 鹿島建設株式会社(東京都) / コウノトリ育むお米生産部会JAたじま、NPOコウノトリシッチェット、豊岡市、農業改良普及センター(兵庫県) / 積水ハウス株式会社(大阪府) / 中日信用金庫(愛知県) / サラヤ株式会社(大阪府)

2010年 第1回生物多様性みどり賞(国際賞)



カナダ
ジャン・ルミール氏
生物学者、探検家、映画製作者

生物学者であるルミール氏は、生物多様性の危機を多くの人に伝え、世界を変えていくために映画の製作を決意し、2005年から430日間南極大陸への滞在を敢行しました。



アメリカ
グレッチェン・C・デイリー氏
スタンフォード大学 教授

自然環境をひとつの資産と見なす「生態系サービス」という概念を提唱。里山の生物多様性が農業に与える影響を調査し、環境から得られるサービスの価値を数値化しました。



インドネシア
エミル・サリム氏
インドネシア大統領諮問会議 議長・元インドネシア人口・環境大臣

世界に先駆けて開発計画に環境の視点を盛り込み、その尽力が国際的に評価されています。現在も、昔ながらの知恵と科学技術の融合の有効性や産業構造シフトを発信しています。



ドイツ
アンゲラ・メルケル氏
ドイツ連邦共和国 首相
国際生物多様性年 特別賞

首相就任時、元連邦環境・自然保護・原子力安全大臣としての経験を活かし、気候変動や生物多様性といった地球規模の環境問題に関して強いリーダーシップを発揮しました。

2011年 第2回生物多様性日本アワード(国内賞)

■グランプリ賞: 日本雁を保護する会(宮城県)

湿地環境の指標種としての雁類の保護およびその生息環境の保全・復元と人間との共生を目指す活動

雁類の渡り経路を国際調査し、国内生息地の保全・啓発・提言活動を実施。近年は、農業との共生をめざす「ふゆみずたんぼ」の提唱・普及に取り組んでいます。「蕪栗沼・周辺水田」のラムサール条約湿地登録、ラムサール COP10 における「水田決議」実現に貢献しました。



■優秀賞: 有限会社鮎谷産業(宮城県) / NPO法人ビッキオ(長野県) / NPO法人多摩源流こすげ(山梨県) / 株式会社野田自洗共生ファーム(千葉県)

2012年 第2回生物多様性みどり賞(国際賞)



チリ
ファン・カルロス・カステーリャ氏
チリカトリカ大学 教授

南米における海洋生態学のパイオニア。政府と沿岸地域コミュニティの小規模海洋保護区の協働管理がグリーンエコノミーの形成に貢献可能であるとしました。



コスタリカ
ロドリゴ・ガメス＝ロボ氏
コスタリカ生物多様性研究所 代表

インビオにおける生物多様性イベントリー作成を通して生物多様性を独創的かつ具体的のある姿で提示。生物多様性の保全と利用に関する成功例を紹介しました。



ベトナム
ボ・クイ氏
ベトナム国家大学ハノイ校
自然資源管理・環境研究センター名誉総長

戦争で疲弊した国土の緑化を通じて他の開発途上国における自然環境保全・修復の手本を示し、破壊された自然の再生が可能であることを示しました。

2013年 第3回生物多様性日本アワード(国内賞)

■グランプリ賞: NPO法人田んぼ(宮城県)

津波に被災した田んぼの生態系復元力による復興

宮城県、岩手県の津波被災地域の生態系の復元力を活用した自然農法のシステム(ふゆみずたんぼ)で田んぼの復興を実現し、抑塩にも成功。また、科学的なモニタリング実施の結果、被災した年の秋から豊かな収穫を実現しています。



■優秀賞: 味の素株式会社(東京都) / 中越パルプ工業株式会社(東京都) / てるはの森の会(宮城県) / ネイチャー・テクノロジー研究会(宮城県)

2014年 第3回生物多様性みどり賞(国際賞)



インド
カマル・パワ氏
アショーカー生態学環境研究トラス 代表 / マサチューセッツ大学 ボストン校 特別教授

熱帯林の研究において、森林の再生に関する新しい手法の考案や森林崩壊が生物多様性の枯渇を招くことを示し、保全生物学分野の研究で重要な成果を導きました。



ガーナ
アルフレッド・オテンゲ＝イエボア氏
ガーナ生物多様性委員会 議長

アフリカを代表する生物多様性の指導者。生物多様性条約科学技術助言補助機関会議長など国際機関の要職を歴任し生物多様性に関し、世界的な影響を与えてきました。



アルゼンチン
ビビアナ・ヴィラ氏
ビクーニャ/ラクダと環境 学際研究プロジェクト 代表 / アルゼンチン学術研究会議 主席研究員

アンデス地方の野生動物ビクーニャについて、地域の先住民の伝統的な知識と生態学等の現代の科学を融合させて保全対策の実践を主導しました。

2015年 第4回生物多様性日本アワード(国内賞)

■グランプリ賞:一般社団法人エゾシカ協会(北海道)

エゾシカの先進的な資源的活用促進事業

北海道でのエゾシカの適正な個体数管理のため、シカ肉を適正に利用し、森林保全に還元する仕組みとして、製品認証制度、加工食品認証制度、シカ捕獲者による肉検査者認証制度の創設に取り組みました。安心安全なシカ肉の流通により、森とエゾシカと人との共存、シカ肉の資源的価値の向上に貢献しています。

■優秀賞:株式会社伊藤園(東京都)/九州の川の応援団・九州大学鳥谷研究室(福岡県)/NPO法人グラウンドワーク三島(静岡県)/気仙沼市立大谷中学校(宮城県)



2016年 第4回生物多様性みどり賞(国際賞)



メキシコ
アルフォンソ・アギーレ=ムニョス氏
島嶼(とうしょ)生態系保全グループ事務局長

多くの固有種が息息し、豊富で多様な生態系を有するメキシコの島嶼地域において、侵略的外来種の駆除をはじめとする保全の推進にたゆまぬ努力を続けてきました。



ロシア
ユーリ・ダーマン氏
世界自然保護基金 アムール支所所長

淡水生態系への影響を懸念し、ロシアのアムール地域にてダム建設反対キャンペーンを5回にわたり実施。アムールトラ等、象徴的希少種の個体数の回復に貢献しました。



インド
ヴァンダナ・シヴァ氏
ナウダーニャ 創設者・代表

「アース・デモクラシー(大地の民主主義)」に基づき農家の権利と生物多様性を守る伝統的な有機農法の普及等、主に農業・食糧分野において草の根活動を展開しました。

2017年 第5回生物多様性日本アワード(国内賞)

■グランプリ賞:NPO法人 黒潮実感センター(高知県)

「高知県最南端柏島・島が丸ごと博物館(ミュージアム)」持続可能な里海づくり

生物多様性の宝庫である高知県柏島の豊かな自然と人々の暮らしを、「島がまるごと博物館」と捉え、持続可能な里海モデルの創出を目指す活動を行ってきました。さまざまなステークホルダーが漁業や観光の視点から、生物多様性に取り組み、環境の保全と利活用の両立を実現しています。

■優秀賞:宮城県漁業協同組合(宮城県)/一般社団法人企業と生物多様性イニシアティブ(JBIB)(東京都)/トンボはドコまで飛ぶかフォーラム(神奈川県)/山陽女子中学校・高等学校 地歴部(岡山県)



2018年 第5回生物多様性みどり賞(国際賞)



イギリス
キャシー・マッキノン氏
国際自然保護連合 世界保護地域委員会議長

インドネシアで熱帯生態学を研究後、世界銀行の主席生物多様性専門家として、途上国における生物多様性の保全と自然資源管理を強化するプロジェクトを推進しました。



レバノン
アサド・セルハル氏
レバノン自然保護協会事務局長

レバノン内戦下、母国の自然遺産を守るうと、「レバノン自然保護協会(SPNL)」を設立。伝統的な地域主体の保全システムであるHIMA(保護地域)の復活を提唱しました。



マレーシア
アブドゥル・ハミド・ザクリ氏
前マレーシア首相科学顧問

世界の生物多様性と生態系サービスの観測・分析・評価に長年にわたって貢献するとともに、自然環境の保護や修復を促し、持続可能な環境保全を推進してきました。

2019年 第6回生物多様性日本アワード(国内賞)

■グランプリ賞:株式会社コクヨ工業滋賀(滋賀県)

ヨシでびわ湖を守るリエデンプロジェクト

琵琶湖のヨシ刈りや外来魚駆除などの活動を通じて、地域と連携した生物多様性の資源保護の取り組みを行っています。更に、刈り取ったヨシを活用したエコ文具「リエデンシリーズ」を開発し、CSV事業モデルとなる取り組みです。

■優秀賞:株式会社アレフ(北海道)/世界遺産白神山地ブナ林モニタリング調査会(宮城県)/認定NPO法人穴塚の自然と歴史の会(茨城県)/愛知県岡崎市立 生平小学校(愛知県岡崎市)



2020年 第6回生物多様性みどり賞(国際賞)



カナダ
ポール・エベール氏
カナダ ゲルフ大学 統合生物学部教授

DNA情報に基づき、あらゆる生命体を適切な生物種に識別する1千万件以上の「DNAバーコード」の開発に取り組み生物多様性をより身近なものとししました。



ブラジル
メリーナ・サキヤマ氏
生物多様性グローバルユースネットワーク(GYBN)共同創設者

自然と共生する未来を創るため、若者とその組織のエンパワーメントを目的とした国際的な連合を構築し、様々な問題解決に向け、国境を越えた活動を展開しました。



カメルーン
ウィルシー・エマニュエル・ビニョイ氏
環境活動団体「カメルーン ジェンダー・環境ウォッチ(CAMGEW)」創設者

「地球環境で考え、地域で行動しよう」と、地域社会を巻き込んで種子や苗の収穫、苗床開発、森林パトロールの組織化を図り、森林の保全と再生に取り組みました。

※受賞者の所属と肩書は受賞当時

■グランプリ賞: O2 Farm(熊本県)

ランドスケープ農業

「ランドスケープ農業」という新しい概念を提唱。生物多様性のみならず、景観、文化・ライフスタイルにいたる統合的な保全を目指し、環境文化保全型の農業へと転換するきっかけとなりました。若者の移住者が多い点は、今後の日本の「地域循環共生圏」づくりの体現モデルにもなっています。

■優秀賞: 尻別川の未来を考えるオビラメの会(北海道) / 特定非営利活動法人当目(とうめ)(石川県) / 豊田鉄工株式会社(愛知県) / 長野県伊那農業高校(長野県)



受賞者の
活動紹介

第3回生物多様性みどり賞受賞者
ビビアナ・ヴィラ氏(アルゼンチン)

ビクーニャの保全と管理

経済的価値が高いビクーニャの体毛の利用を通じた地域コミュニティの支援や環境教育の実施を統合し、野生生物の保全と地域コミュニティの安定的発展の両立を実現しています。



30周年記念事業

2021年から3年間、財団の設立30年事業として、さくらの名所づくり・苗木の配布・苗木の里親プロジェクトを実施しました。



さくらの名所づくり 埼玉県狭山市



さくらの名所づくり 北海道厚真町



苗木の配布 千葉県木更津市



苗木の配布 岩手県盛岡市

■苗木の里親プロジェクト

2020年10月から2年間、里親として苗木を自宅や学校で育てる取り組みを実施しました。各地域の自生種29樹種1万本を、植樹地近隣の小学校・大学・行政・イオン店舗など100か所で地域ボランティアの方々に配布し、約1年後に育った苗木を受け取り、イオンの森に植樹しました。



竹田直入小学校



イオン環境財団のあゆみ

■ 財団の歴史

- 1990年12月 イオングループ環境財団 設立発起人会開催
- 1991年 1月 財団設立認可。岡田卓也よりイオン株式300万株、二木英徳よりイオン株式100万株、安田敬一から1,000万円を基本財産として寄附を受け設立
- 6月 第1回「環境活動助成公募」実施(以降毎年実施)
- 1992年 6月 「国連環境開発会議(リオ・サミット)」へ支援
- 1993年 8月 アメリカ ポストン市内チャールズ河畔に桜500本植樹
- 10月 第1回「日中環境問題国際シンポジウム」開催(93、95、97年)
-
- 1995年 設立5周年
- 1998年 7月 中国 万里の長城植樹開始(~10年)
- 1999年 1月 「アジア太平洋地域市長環境サミット」支援
-
- 2000年 設立10周年
- 10月 岡田卓也よりイオン株式500万株の寄附
- 2001年 8月 財団法人イオン環境財団に名称変更
-
- 2006年 設立15周年
- 4月 岡田卓也よりイオン株式150万株の寄附
- 2009年 5月 岡田卓也が「北京市名誉市民」受称
- 9月 小中学校に太陽光発電システム寄贈(以降、毎年実施)
- 10月 第1回「生物多様性日本アワード(国内賞)」を開催(以降、隔年実施)



設立発起人会



リオ地球サミット

日中環境問題
国際シンポジウム

中国・万里の長城植樹

アジア太平洋地域市長
環境サミット設立15周年
ワンガイ・マータイ氏講演

2010年

- 4月 中国 万里の長城植樹(100万本記念植樹)
- 9月 「公益財団法人」に移行
- 10月 生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)を契機に「第1回生物多様性日本アワード(みどり賞)」を設立
- 12月 岡田卓也が「カンボジア王国友好勲章大十字型章」を受章



生物多様性みどり賞

第1回アジア学生交流
環境フォーラム(ASEP)

- 2012年 8月 「第1回アジア学生交流環境フォーラム(ASEP)」開催(~2023)

イオン植樹1,000万本
記念石碑建立

- 2013年 9月 イオン植樹1,000万本達成

2015年

- 2017年 2月 フューチャーアースと東京大学と連携「第1回イオン未来の地球フォーラム」(~21年)
- 7月 岡田卓也が「ハノイ名誉市民」の称号を受称

「AEON TOWA
リサーチセンター」設立

2020年

- 9月 早稲田大学と連携し「AEON TOWAリサーチセンター」設立

設立30周年記念式典
理事長引き継ぎセレモニー

- 2022年 6月 岡田卓也が名誉理事長に就任
岡田元也が理事長に就任

- 2023年 4月 岡田卓也が旭日大綬章を受章

- 2023年12月 「第1回イオンSATOYAMAフォーラム」開催

役員・評議員一覧

名誉理事長

岡田 卓也

イオン(株) 名誉会長相談役

理事長

岡田 元也

イオン(株)
取締役兼代表執行役会長

専務理事

山本 百合子

理事

石澤 良昭

上智大学アジア人材養成研究センター
所長
元 上智大学 学長

岩槻 邦男

東京大学 名誉教授
兵庫県立人と自然の博物館 名誉館長

岡田 尚也

イオン(株) 執行役マレーシア担当
兼イオンマレーシア取締役 社長

鈴木 正規

キヤノン(株) 社外取締役
元 環境省事務次官
元 イオンフィナンシャルサービス(株)
取締役会長

但木 敬一

T&Tパートナーズ法律事務所
客員弁護士
元 検事総長

樋口 清司

元 国際宇宙航行連盟 会長
元 宇宙航空研究開発機構
副理事長

南川 秀樹

(一社)日本環境衛生センター 理事長
元 環境省 事務次官

山極 壽一

総合地球環境学研究所 所長
前 京都大学 総長

監事

行天 豊雄

(株)三菱UFJ銀行 名誉顧問

常盤 敏時

(公財)渋沢栄一記念財団 理事
元 イオン(株) 取締役 会議長

山下 昭典

イオン(株) 顧問

評議員

市川 晃

住友林業(株) 代表取締役会長
(一社)日本木造住宅産業協会 会長
第33次地方制度調査会 会長

岡田 康彦

元 弁護士法人北浜法律事務所
代表社員
元 環境省 事務次官

北村 正任

(株)毎日新聞社 名誉顧問

肥塚 雅博

(株)ソシオネクスト
代表取締役会長兼社長

末吉 竹二郎

国連環境計画・金融イニシアチブ
特別顧問
WWFジャパン 会長

鈴木 悌介

(株)鈴廣蒲鉾本店 取締役相談役
(一社)エネルギーから経済を考える
経営者ネットワーク会議 代表理事

高田 昌也

元 (株)中日新聞社東京本社
編集局 次長

武内 和彦

(公財)地球環境戦略研究機関
理事長

塚本 隆史

(株)みずほフィナンシャルグループ
特別顧問
イオン(株) 取締役

速水 亨

速水林業 代表

二木 英実

(公財)日本オペラ振興会 理事
(公社)日本新体操連盟 理事
(公財)二木育英会 理事

松浦 晃一郎

第8代ユネスコ 事務局長
(株)パソナグループ 特別顧問
(一社)アフリカ協会 会長

宮村 智

税理士法人みらい 特別顧問
元 駐ケニア共和国 特命全権大使

敬称略・五十音順・2024年7月現在

